

種の概要

北海道南部から九州に分布。内湾の潮間帯下部から潮下帯の泥底・砂泥礫底に生息する。殻長140mm程度。殻は大きく、やや四角張った楕円形、やや厚質で膨らむ。前端は細く、わずかに開く。後端は裁断状で、両殻の間が広く開く。成長脈は明瞭で、特に後方で粗い。灰褐色の殻皮に覆われる。太い水管を食用とし、市場では「ミルクイ」と呼ばれる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

洲本市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島中部の内湾に面した礫混じりの干潟で、潮干狩りなどでまれに得られるが、大型のものは見られない。また若齢個体は、北部東岸でも比較的多く見られる。

保護上の留意点

干潟においては若齢個体の生育場所になっていると考えられ、近隣海域の資源維持のためにも、既知産地の保全に留意すべきである。



写真提供：川渕千尋



写真提供：川渕千尋

【執筆者】 川渕千尋